

あす、白山瀨波を設立

“清流の郷”再生へ地元と連携

中央設計技術研究所

地域活性化事業の第1弾

建設コンサルタントの中央設計技術研究所(金沢市、中辻英二社長)は15日、石川県白山麓に位置する白山市瀨波地区に



西原 秀幸氏

において「(株)白山瀨波」を設立し、地元と連携した地域創生に乗り出す。同社における地域活性化事業の第1号となり、資本金500万円のうち、400万円を同社が負担し、残る100万円は同地区の住民や出身者の有志1人が出資して活



今夏に開かれた瀨波川での野外学習①とキャンプフェスティバル

旧吉野谷村が瀨波川キャンプ場や研修交流施設「白山里」を設けて、積極的に観光開発が進められた時期もあったが、現在では過疎化が著しく、定住人口は29世帯54人に減少し、その7割は70歳以上の高齢者が占める。活性化会社では、まず廃止されたキャンプ場を再生し、「清流の郷」として運営。宿泊や日帰り、バーベキュー、フェスティバルなどに対応する。さらに、有害鳥獣の駆除とともに、山菜や野菜、猪肉、魚、薪、炭などの地元で収穫した農作物を販売するほか、小・中学校の野外活動への協

力を、自然体験イベントによる都市住民との交流により、交流人口の拡大を図る。また、高齢住民の委託を受けて屋根雪下ろしや除雪対応、草刈りなどを担う。将来的には直売所も設置し、設立3年目に売上高1000万円を目指す。

活性化会社の社長に就く西原部長は「新幹線開業により観光客が押し寄せ、白山の奥まで人が入れば、その立ち寄ったすべての場所で経済効果が期待できる」と話すとともに、「地域創生に向けて、まずは地元で仕事を生み出す。働く場所を確保することやUターンも期待できる。一方地域が潤えば、それに伴ってコンサルの仕事も増えることになると双方のメリットを指摘し、同じ課題を抱える白山麓各地への広がりも期待を寄せる。

また、中辻社長も「このままでは、2040年頃には白山麓に人がいなくなる。会社設立以来、約70年にわたり、白山市内の水道、下水道の仕事に携わってきた経緯があり、地域の活性化のために貢献していきたい」と、石川県内で第2、第3弾の地域活性化事業も検討していく考え。

その上で、今後は人口減により各自治体では、施設の維持管理や老朽化更新が財政的に難しくなり、民間の経営ノウハウや資本を入れてお手伝いする時代を迎える。社会貢献活動を進めながら、公共施設の包括的な維持管理をトータルに担う会社組織にしたい」と将来を見据える。

北陸工業新聞社 日刊建設工業新聞 (2015年10月16日付14面掲載)
【中央設計技術研究所 新会社の白山瀨波を設立 地域活性化事業の第1号】



握手を交わす関係者(左から中辻社長、西原部長ら)

新会社の白山瀨波を設立

地域活性化事業の第1号

中央設計技術研究所

中央設計技術研究所(金沢市、中辻英二社長)は15日、同社における地域活性化事業の第1号となる新会社「(株)白山瀨波」の設立並びに、同社白山事務所の開所式を石川県

白山市瀨波に開設した事務所で執り行った。新会社は過疎化が著しい瀨波地区の活性化を目的に、同社と地元住民や出身者の有志1人が出資して設立。キャンプ場

の運営管理や農作物の販売、除雪対応など地域の委託管理を担い、地域創生を目指す。

同日は同社幹部のほか、来賓として前多喜良川魚の生態学習としてゴリの放流や漁業関係者を招き講演会を開催する。

同日は同社幹部のほか、来賓として前多喜良川魚の生態学習としてゴリの放流や漁業関係者を招き講演会を開催する。

同日は同社幹部のほか、来賓として前多喜良川魚の生態学習としてゴリの放流や漁業関係者を招き講演会を開催する。